

心理学科 卒業論文・評価ルーブリック

卒業論文	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力	C. 表現力	D. 多様な人々との協創
1. 全体	専門的な用語や概念を適切に理解して用いている。	論旨が一貫しており、論理に飛躍がない。	指定された書式によって作成し、誤字や脱字、文法上の誤りがなく、分量も適切である。	他者との議論の中で、他者の意見に耳を傾け、参考にしようとする。
2. 序論	テーマに沿った適切な先行研究を検索し、参照している。	先行研究の知見や課題を適切に理解し、研究目的又は仮説を生成している。	自らのリサーチクエスチョンを、先行研究の知見を論じながら、研究課題として論理的かつ客観的に表現及び展開している。	—
3. 方法	研究目的又は仮説を検証するための適切な研究方法を理解している。	(実験・質問紙・観察・面接) 対象者の選定、刺激や測度等の選択又は作成、手続き等が適切である。 (文献研究) 目的に応じた適切な選択基準に基づき、国内外の文献を偏りなく抽出している。	(実験・質問紙・観察・面接) 方法を読むだけで追試(再現)ができるよう詳細に記述している(付録等に収載した説明文書、実験刺激や質問紙等がある場合はそれらも含む)。 (文献研究) 各文献で用いられている研究方法について簡潔にわかりやすく記述している。	(実験・調査・観察・面接) 参加者に対し、研究目的や個人情報の取扱いについて十分に説明し、同意を得たうえで、適切な配慮のもと研究を遂行している。
4. 結果	研究目的又は仮説を検証するために、適切な検定法やデータの整理方法を理解している。	(量的研究データ※) 検定等の結果に基づいて、客観的に記述している。 (質的研究データ※) 恣意的に、データを抽出したり、分類したりせず、客観的に記述している。	(量的研究データ) 適切な統計値や図表を記載している。 (質的研究データ) 図表を用いるなどして、結果をわかりやすく示している。	—
5. 考察	分析等の結果を適切に理解している。	分析等の結果に基づいて、研究目的又は仮説がどのように検証できたかを判断している。	先行研究等を用いて、根拠や理由を示しながら、論理的かつ客観的に考察している。	—
6. 引用	引用文献の表記方法を適切に理解している。	論文内での引用において、無駄な引用がなく、主従関係等の引用方法も適切である。	論文内で使用したすべての文献等が引用文献に記載されている。	—

※量的研究データ：実験法・質問紙法・観察法・面接法における数値データ、メタ分析等を行うための各先行研究の数値データ、テキストマイニングをするためのテキストデータ、記述データのコードやカテゴリーに関する一致率、など

※質的研究データ：質問紙法における自由記述内容、面接法における応答内容等、観察法における記録内容、日誌法等における記述内容、文献研究における各文献の記述内容、実験法における内省報告内容、など

心理学科 卒業論文・ルーブリック評価項目及び評価基準

評価項目／評価基準			5	4	3	2	1
1.	全体	1-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
2.		1-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
3.		1-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
4.		1-D	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
5.	序論	2-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
6.		2-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
7.		2-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
8.	方法	3-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
9.		3-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
10.		3-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
11.		3-D	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
12.	結果	4-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
13.		4-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
14.		4-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
15.	考察	5-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
16.		5-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
17.		5-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
18.	引用	6-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
19.		6-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分
20.		6-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分	全く不十分

*2

*1

* 文献研究の場合、「3-D」は該当しないため (*1)、「1-D」の評価を2倍する (*2)。 (20項目×5点 = 100点)

大学・学部・学科のディプロマ・ポリシー（参考）

大学 DP	知識 技能	思考力 判断力	表現力	多様な人々との協創
学部 DP	①乳幼児から高齢者に至る各ライフステージにおける「こころ」と「からだ」、さらにはその相互作用に関する基礎知識を、客観的かつ論理的に記述・説明する思考力、判断力、及び表現力 ②「こころ」と「からだ」の働きに関して科学的に数量化して分析する技能とその分析を通じて得られた結果を活用する創造力及び実践力			③主体性をもって問題を発見し、多様な価値観を持つ他者と共感的な人間関係を構築しながら問題の解決に当たる協働性
学科 DP	①科学的心理学の知見・方法・理論の歴史的展開と現状を自ら調べることによって、人間の「こころ」の働きについて学術論文として客観的かつ論理的に記述できる。 ②人間の「こころ」と行動を科学的に数量化し統計的に分析する能力、並びに得られた結果に関する他者との議論を通じて、「健康問題」に代表される日常の身近な課題に対して適切な探求方法を考案し、自律的に解決できる。			③人間の「こころ」と行動に関する基礎知識を元に、自他共に信頼し、他者の言葉に耳を傾け、他者の行動に関心を持って共感的な人間関係を構築し、協働して問題解決に当たることができる。